

## 4 将来像実現に向けた取組の方向性

将来像の実現に向け、2つの重点プロジェクトと5つの基本目標により、体系的にまちづくりを進めます。

交流人口の拡大や、地場産業の振興、企業誘致、新産業の創出などに取り組み、地域経済の活性化を図ります。

こうした取組により、所得の向上や安定した雇用の維持・創出につなげ、地域内消費が拡大し、さらに地域経済が活発化するという好循環をつくり出します。



本市のブランド力をさらに強固なものとするため、地域資源に磨きをかけるとともに、新たな魅力を発掘・創出し、その魅力を発信することで、新たな資源に進化させます。

こうした取組により、交流人口が拡大し、まちに活気と賑わいがあふれ、市民の誇りと愛着が増し、さらにまちの魅力が高まる好循環をつくり出します。

### 【5つの基本目標と20の施策】

#### 【1】 まちの賑わいを再生し未来へ引き継ぎます

交流人口を拡大し、その経済効果を各産業へ波及させるとともに、地場産業の強化や地場産品の利用促進・高付加価値化に取り組みます。また、産学官連携による地域産業の活性化や高等教育機関が持つ教育・研究機能をさらに充実します。

- 1 観光・コンベンションの振興
- 2 農林水産業の振興
- 3 商工業の振興
- 4 新産業の創出と企業立地の促進
- 5 学術研究機能の充実



#### 【2】 子ども・若者を育み希望を将来へつなぎます

地域社会全体で安心して子どもを生み育てることができる環境を整備するとともに、子どもや若者が確かな学力を身につけ、創造性豊かで心身ともにたくましく生きる教育環境を整備するほか、若者への支援に努めます。

- 6 子ども・子育て支援の充実
- 7 学校教育・高等教育の充実
- 8 若者への支援の充実



#### 【3】 いつまでも生き生きと暮らせるまちをめざします

市民一人ひとりがともに支えあうことができる地域コミュニティの形成や安定した雇用の維持・創出に取り組むとともに、市民が健康で生きがいをもって暮らせるまちとなるよう努めます。

- 9 暮らしを支える福祉の充実
- 10 生きがいづくり・健康づくりの推進
- 11 安全に暮らせる市民生活の確保
- 12 安定した雇用の維持・創出



#### 【4】 日本一魅力的なまち函館を次世代へ継承します

魅力ある景観や町並み、市街地を形成するとともに、魅力の源泉である郷土の歴史を継承し文化の振興を図るほか、国内外の交流により、こうした函館の魅力を内外に発信するほか、陸・海・空の交通網をさらに充実します。

- 13 魅力ある景観・町並み・市街地の形成
- 14 文化芸術の振興と歴史の継承
- 15 国際化と地域間交流の推進
- 16 陸・海・空の交通網の充実



#### 【5】 持続可能な都市の基盤を構築します

人口減少が進むなか、市民生活の利便性と都市経営との調和を図り、長期的な視点で、社会基盤施設の機能維持、公共交通の再編、自然環境の保全などに取り組むとともに、防災対策を充実します。

- 17 社会基盤施設の機能維持
- 18 公共交通の再編
- 19 防災対策の充実
- 20 環境保全の推進



# 函館市基本構想

[2017~2026]

概要版

北のクロスロード

HAKODATE

~ともに始める 未来を拓く~

函館市

「函館市基本構想」は、めざすべきまちの将来像と、その実現に向けた基本的な方向性や目標などを示し、長期的な視点でまちづくりに取り組んでいくための指針です。

函館市基本構想 [2017-2026] 概要版 発行:2017(平成29)年3月

発行:函館市(企画部計画推進室計画調整課) 〒040-8666 函館市東雲町4番13号  
TEL:(0138)21-3693 FAX:(0138)23-7604 E-mail:keikakuchousei@city.hakodate.hokkaido.jp

# 1 策定の趣旨

## 【策定の意義】

日本の総人口が減少するなか、本市においても人口減少が避けられない状況となり、再生や持続的発展をめざすまちづくりへの転換の必要性が改めて明確となりました。

一方、「第二の開港」ともいえる北海道新幹線開業は、長らく続いてきた停滞期から抜け出し始めている本市にとって、本格的な再生に向かう最大の好機です。

基本構想は、この時代の転換期において、市民、企業、団体および行政といったあらゆる主体が一体となってまちづくりに取り組むべき指針として策定しました。

【目標年次】 2026(平成38)年度とします。

【対象区域】 函館市全域を基本とします。



# 2 函館市の課題とまちづくりの考え方

## 【人口減少を見据えた優先的に取り組むべき課題】

本市の人口減少は、若年層をはじめとする転出超過、出生数の減少、高齢化に伴う死亡者数の増加が主な要因です。人口減少を見据え、10年間に優先的に取り組むべき課題を明確にします。

### 【1】 地域経済の活性化と安定した雇用の確保

北海道新幹線の開業や中心市街地活性化事業の進展などにより、まちに生まれ始めた新たな賑わいを止めることなく、地域経済の活性化を図り、若年層をはじめとする安定した雇用を確保することが課題です。

### 【2】 北海道新幹線開業後のまちづくりの取組

北海道新幹線開業を機に、北海道内、北関東や東北地域など多くの自治体との連携により拡大する、人や物の流れを最大限に活用し、2030年度に予定されている北海道新幹線の札幌延伸を見据え、長期的な視点でまちづくりに取り組むことが課題です。

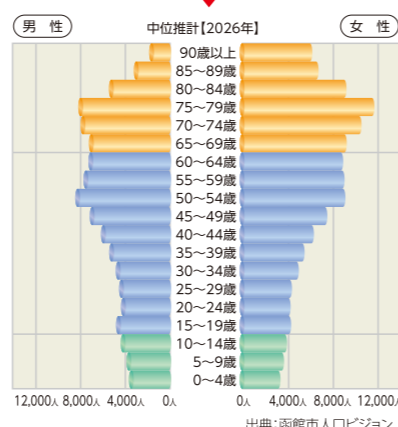
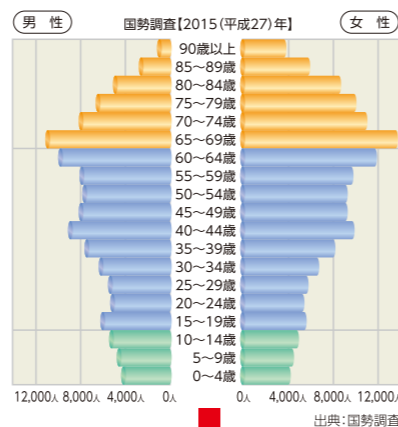
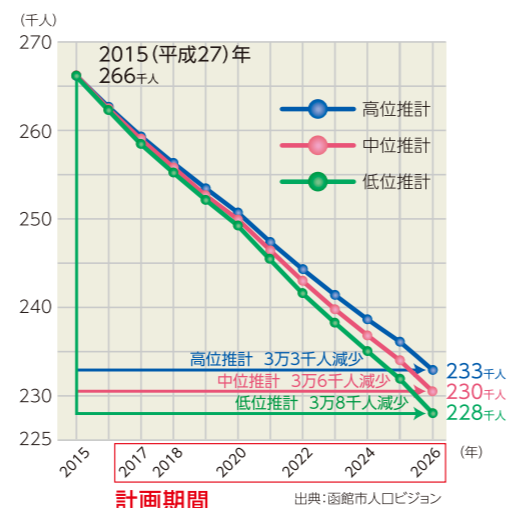
### 【3】 少子・超高齢社会への対応

誰もが快適で豊かな暮らしを送ることができる地域社会を実現するため、地域を支える人材の育成・確保を図るとともに、地域社会全体で支え合う環境を整備し、少子・超高齢社会へ対応することが課題です。

### 【4】 持続可能なまちの形成

人口が減少しても、医療や福祉、商業など日常生活に必要なサービスの低下をできる限り抑制し、市民生活の利便性を維持するため、都市機能の集約化を図るなど長期的な視点に立ち、持続可能なまちの形成に取り組むことが課題です。

■人口減少の状況と推計



## 【まちづくりの基本的な考え方】

### 【1】 社会情勢の変化と函館市の現状を踏まえたまちづくり

急激な高齢化の進行、地球環境の変動などといった社会情勢の変化や、人口の推移、地域経済・産業など、本市の現状を踏まえたまちづくりを進めます。

### 【2】 函館市の優位性を活かすまちづくり

本市には、独特の地理的・文化的・歴史的な資源、恵まれた自然環境、陸・海・空の交通の要衝であることなど、数多くの優位性を有していることから、こうした優位性を最大限に活かし、まちづくりを進めます。

### 【3】 ともに役割を果たし協働を進化させるまちづくり

市民や企業、団体は、自らがまちづくりの主役であるという認識のもと、主体的な活動を充実させ、一方、行政はそれら市民等を支え、ともにまちづくりを進める環境を整備し、これまで取り組んできた市民協働をさらに進化させます。

## 【土地利用の考え方】

土地は、人が生活し生産活動などを行ううえで基盤となるものであり、未来へ適切な形で引き継ぐべき限られた資源です。土地利用にあたっては、その特性を踏まえ、「市街地」、「農業・漁業地域」、「森林」、「緑地」に分類し、長期的な視点に立って、総合的かつ計画的に進めます。



# 3 函館市の将来像

本市は、歴史的町並みや景観、函館山や恵山といった豊かな自然、恵まれた農水産物など多くの魅力にあふれたまちです。この魅力は、長い年月をかけて先人たちが培ってきたものです。しかし、歳月を重ねるにつれ、市民一人ひとりがこうした歴史を理解し、このまちを未来へつないでいくという意識が失われつつあります。

北海道新幹線開業という歴史的転換期において、今を生きる私たちの使命は、現状に甘んじることなく、まちの魅力を新たに創り出し、さらに高めて、次世代へ継承していくことだと考えます。

函館に住むすべての人が、このまちに誇りと愛情を持ち、まちのために自らが行動するとともに、国内外から様々な人が集い、絆を結び、お互いに力を合わせともに歩むまちでありたい。

こうした願いを込めて、函館市の将来像を

# 北のクロスロード HAKODATE

～ともに始める 未来を拓く～

と定めます。